

史跡 旧林崎文庫説明文: 当文庫は外宮の豊宮崎文庫とともにわが国調査研究図書館の先駆をなすものであり、貞享3年(1686)宇治会合所の大年寄等が山田奉行岡部勝重に請い、幕府の下賜金を得て翌年丸山に内宮文庫を建設したのに創まる。然るにこの地湿潤の故に元禄3年(1690)北隣の林崎に移し林崎文庫と改称する。天明2年(1782)荒木田尚賢等が講堂・塾舎を増築する。文政4年(1821)後方の高地に再建して石階を築き同6年？に移転し今日に至る。この間、林 信篤・伊藤東涯・竹内式部等の碩学大儒が書を講じ、或いは水戸光圀・大塩平八郎・村井敬義等の諸侯・学者が著述や蔵書を寄進し、その蔵書は11,978冊に及ぶ。明治6年(1873)土地・建物・図書一切を神宮に納める。同39年神宮文庫の開設により全蔵書を同文庫に移管する。昭和29年(1954)国史跡に指定される。

山	神路山	かみじやま	D2	宇治館町
谷	西行谷	さいぎょうだに	D1	宇治館町
河川	五十鈴川	いすずがわ	C4	
橋	宇治橋	うじばし	C3	宇治今在家町
橋	浦田橋	うらたはし	B1	宇治浦田町
橋	新橋	しんばし	B2	宇治中之切町
電車	合同電気鉄道線	ごうどうでんきせん	AB	
駅	浦田町停車場	ていしやじょう うらたちょう	B1	宇治浦田町
駅	猿田彦神社前停車場	ていしやじょう さるたひこじんじやまえ	A1	宇治浦田町
駅	進修小学校前停車場	ていしやじょう しんしゅうしょうがっこうまえ	B2	宇治中之切町
駅	内宮前停車場	ていしやじょう ないくうまえ	B3	宇治今在家町



西行谷(現在)と神照寺跡説明の中の伊勢参宮名所絵図

新橋

西行谷神照寺跡説明文: この谷の奥には平安時代末期の歌人で有名な西行法師(1118~90)が一時住んだといわれるところがあります。ここは西行が二見の安養寺(二見町溝口・平成4年の発掘調査で平安時代~鎌倉時代にかけての建物跡・各種の土器・その他多くの木製品は出土)に住んだのち、この西行谷へ移ったと伝えられる場所です。西行が住んだ庵はどこかはっきりしませんが、谷に接して庵が営まれたような平坦地やその奥には小さな滝が落ちており、その雰囲気がしのべれます。

神社	皇大神宮	あまてらすこうたいじんぐう	D4	宇治館町 内宮 唯一神明造
神社	神楽殿	かぐらでん	CD4	宇治館町
神社	祭主宮官舎	さいしゆのみやかんしゃ	B2	宇治浦田町 元慶光院 現 祭主職舎 太郎館大夫の門
神社	齊館	さいかん	C4	宇治館町
神社	猿田彦神社	さるたひこじんじや	A1	宇治浦田町



乗合自動車内宮前驛



猿田彦神社

猿田彦神社説明文: 猿田彦大神は天孫瓊々杵命(ににぎのみこと)をこの国に御案内された後、伊勢の地を中心に国土の開拓・経営につくされた地主守と伝えられています。また大神の御裔の大田命は皇女倭姫命が神宮御鎮座の地を求めて巡歴されたときに五十鈴の川上の地を献り、伊勢の神宮が創建されました。当社はその子孫が祖先を祭ってきた神社であります。大神は全てのことに先駆け、人々を善い方に導き、世の中の行方を開く「みちひらき」の神として祀られています。その信仰は全国的な広がりをもち、方位除・災除・地鎮・事業繁栄・交通安全・開運などの御祈

禊が連日行なわれています。毎年5月5日に祭り行されている御田祭(おみた)も古い伝統にもとづいています。				
神社	神宮司庁	じんぐうしちょう	B2	宇治浦田町 現 神宮道場
神社	神宮会館	じんぐうかいかん	A3	宇治浦田町 宇治中之切町
神社	神宮奉斎会	じんぐうほうさいかい	B2	宇治浦田町 この建物が後、神都公会堂に
神社	造神宮宇治工作所	ぞうじんぐうこうさくじょ	B1	宇治館町 現 神宮司庁頒布部
墓地	慶光院墓地	けいこういんぼち		16世紀後半 慶光院清順と周養が式年遷宮復活



神宮司庁(現神宮道場) 神宮会館 浦田太夫邸門(現神宮少宮司職舎門) 太郎館太夫邸門 (現神宮祭主職舎門 元慶光院)



慶光院墓地門 慶光院墓地 同墓地はその後、綺麗に整備されました。 役目を果たし終えた石橋

慶光院墓地説明文： 慶光院は臨済宗の尼寺で創始の年代は不詳です。江戸期の知行612石。朝廷や幕府のために祈禱に任じ、京都や江戸に屋敷を賜るなどそれぞれから厚い知遇を得ていました。神宮の衰退期に初代守悦尼(～1539)が永正2年(1505)諸国を勧進し、宇治橋架橋を行なってから神宮との深いかかわりができました。以下3世清順尼(～1566)、4世周善尼(～1611)、5世周清尼(1569～1648)などいずれも苦心の末、宇治大橋や両宮の正遷宮を執り行いました。この墓地は初代守悦から15代盈子にいたる上人たちをはじめ、一族の墓塔が整然と並んでいます。太い竹藪のかこまれた、きわめて閑静な聖域となっています。



百五銀行先の長ノ世古に入って暫く歩くと右手に 俳祖 荒木田守武翁遺跡碑がある。

蘭田神主(長官)の家があったことから長ノ世古と呼ばれていたが、御師・蓬萊大夫の門があったことから蓬萊世古ともいった。



すし久前先の会所世古を暫く歩くと左手の駐車場の 中に宇治年寄会合所遺跡碑がある。

磯部百鱗邸碑を探したが、同地は岩戸屋百鱗房となつて碑を片付けてしまったらしい

碑	藤並(波)松(碑)	ふじなみのまつ	B1	宇治浦田町
商店	赤福	あかふく	B2	宇治中之切町
商店	風宮商店	かぜのみやしうてん	C3	宇治今在家町
商店	鈴七商店	すずしちしうてん	BC3	宇治今在家町

御師	岡田七郎大夫邸	おかだしちろうたゆうてい	C3	宇治今在家町
御師	澤瀉大夫邸	おもだかたゆうてい	C3	宇治今在家町
御師	中川采女大夫邸	なががわうねめたゆうてい	C3	宇治今在家町
御師	正木大夫	まさきたゆう	BC3	宇治今在家町
旅館	大橋館	おおはしかん	C3	宇治今在家町
旅館	神洲館	しんしゅうかん	BC3	宇治今在家町
旅館	水月楼 すし久	すいげつろう すしきゆう	B2	宇治中之切町 元友人経営 現だんらん亭
旅館	別館対泉閣	べっかん たいせんかく	B3	宇治今在家町 大橋館移転後改名 現修養団神都国民道場



水月楼 すし久 別館対泉閣時代の階段か？ 現修養団神都国民道場 宇治法楽舎跡碑

法楽舎：。法楽とは読経や芸能を奉納して神仏を慰めること。神仏習合信仰が盛んだった鎌倉時代に、1275 年「異国降伏」(元寇：一度目 1274 年文永の役、二度目 1281 年弘安の役)のために建てられた密教系の祈祷所。
外宮の法楽舎は世義寺の中にあった。

参考文献

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』、伊勢商工会議所・伊勢文化舎発行「検定 お伊勢さん」写真集 明治大正昭和 伊勢二見小俣、目で見ると伊勢・志摩の100年、図説 伊勢・志摩の歴史 下巻ほか 寛永20年内外宮領図(1643)、寛永中山田郷内惣図(1670)、山田惣絵図(1662)、御神領宇治山田町在惣図(1672) 享保年中宮川以東神領之図(1725 頃)、伊勢路見取絵図(1797)、山田町之図(1815)、山田町分細見(1850)、神都実測図(1900 明治33年)、宇治山田市平面図 宇治山田市編纂(1919 大正8年)、宇治山田商工業案内地図 発行者不明 (1920 大正9年)、宇治山田市(地図) 東京交通社発行 (1923 大正12年)、宇治山田近傍(地図)大日本帝国陸地測量部(1930 昭和5年) 橋爪忠三氏・川端義夫氏想起による作成地図の柴田勉氏他の転写地図 (明治初年・30年頃、大正年間～昭和15年、昭和3年・15年・20年末) 宇治山田市街図 滝川書店発行(1954 昭和29年)、伊勢・鳥羽周辺地域図 人文郷土地図発行(2005 平成17年)、その他、各種地図資料